



〈雑録〉企業合同ノ經濟上ニ及ボス影響ヲ論ズ(2)

海老原, 竹之助

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 12(6):1052*-1061

(Issue Date)

1912-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051884>



右ノ斷定ノ中ニハ深刻ナル悲劇ガ包藏セラレテアル事ヲ忘レテハナラス。詳言セバ多數ノ優秀ナル猶太人ハ克己シテ其周圍ニ同化シ、神ガ彼等ニ授ケタ苦シイ運命トモ名ク可キ猶太人テフ自分カラ脱シヤウト努力スルニ拘ラズ、此熱誠遂ニ報イラレズシテ終ル事ヲ認メ予バナラステフド昔ノ物語ニアルアノアハスフエルガゴルゴタニ行ク基督ノ自分ノ門前ニ休息シヤウトスルノヲ邪慳ニ卻ケタガ爲ニ、天罰ヲ被リ、何時迄モ、何時迄モ、死ヌル事が出來ズ絶エズ世界ヲ經廻ラテバナラナカツタト同様ノ事例ハ今日猶太人間ニ多ク存在スル事ヲ思ハ予バナラス。從テ猶太人中優秀ナル人々ハ自分共ガ猶太人タル事ヲ止メルノハ峻嚴ナル運命ノ到底許サヌ所デアルカラシテ餘儀ナク猶太人トシテ生キヤウト決心セザルヲ得ナイ事トナツタ。故ニ今日猶太民族ノ前ニ置カレタル問題ハ、決シテ其周圍ノ民衆ノ間ニ没入シ遺憾ナク猶太性ヲ失ツテシ

マウカ、乃チ全ク同化シテシマウカ夫レトモ又將來モ尙一民族トシテ生存シテ行クカト云フ選擇問題デハナクシテ、唯自己ノ特性ヲ煙散霧消セシメ、個性ヲ抛チ、自己ト其偉大ナル過去トヲ否定シテシマイナガラ自ラモ猶太人タルヲ止メズ他人ヨリモ猶太人ナリト感ゼラレテ甘ンズルカ、ソレトモ亦強ク自己ヲ肯定シ、其旺盛ナル意志ト燃ユル許リノ熱情トヲ以テ全世界ニ對立シ將來永ク獨立ノ民族團體トシテノ存立ヲ維持スルカト云フニアル。(未完)

企業合同ノ經濟上ニ

及ボス影響 (其二)

商學士 海老原竹之助

第三節 市價ニ及ボス影響

企業合同ノ市價ニ及ボス影響ハ之ヲ(一)原料品ノ市價ニ及ボス影響ト(二)生産品ノ市價ニ及

ボス影響トニ分チテ論ゼザルベカラズ。

(一) 原料品ノ市價ニ及ボス影響

企業者ノ各獨立セル場合ニ在リテハ原料品供給者ハ需要者間ノ競争ニヨリテ其價格ヲ低廉ナラシムルヲ要セザレドモ一旦企業者間ニ合同ノ成立シ且其合同ニシテ其原料品ノ最大需要者タル場合ニ於テハ勢力關係上原料品ノ市價ハ低廉ナラシムルノ已ムナキニ至ルベシ、蓋シ合同ハ自己ガ其最大需要者タルノ故ヲ以テ原料品供給者ヲ強ヒテ低廉ナラシムレバ也、之レヲ二三ノ事實ニ就テ見ルニ彼ノ亞米利加精糖會社及亞米利加葉鐵會社ノ如キハ何レモ合同ノ成立後ニ於テ其原料品ヲ低廉ニ買入レタリ(註九)、更ニ之ヲスタンダード石油會社ニ就テ見ルモ同様ノ事實アリ、即チ同會社ハ原油輸送ニ用ヒラル、主要ナル鐵管ヲ有スルト且原油ノ最大需要者タルヲ以テ永年ニ涉リテ原油ノ價格ヲ左右シ得タルノミナラズ往々ニシテ生産費以下ニ低落セシメ

タルコトアリ、此點ニ關シテホールウイック氏ハ詳細ナル研究ヲ試ミ遂ニ『石油「トラスト」ハ特別ノ地方ニ於テハ其原油市價ヲ往々ニシテ生産原價以下ニ低落セシメ以テ其競争者ニ比シテ莫大ノ利益ヲ得タルヲ知ルベシ』ト斷定スルニ至レリ即チ左ノ如シ

年	月	一「バレル」ノ平均			
		市價	地代	採掘及運上費	至生産原價
一八八四年	七月	〇・六三	〇・〇六	〇・五二	〇・六六
自一八八六年六月	最高價格	〇・六七	〇・〇七	〇・五二	〇・六七
至同	十月	〇・六二	〇・〇五	〇・五二	〇・六七
自一八八七年二月	最高價格	〇・六七	〇・〇七	〇・五二	〇・六七
至同	九月	〇・五九	〇・〇五	〇・五二	〇・六九
一八九〇年	十月	〇・六七	〇・〇七	〇・五二	〇・六七
自一八九一年四月	最高價格	〇・七一	〇・〇八	〇・五二	〇・六九
至一八九三年十月	最低價格	〇・五一	〇・〇三	〇・五四	〇・六二
自一八九七年八月	最高價格	〇・七一	〇・〇八	〇・五四	〇・六七
至一八九八年二月	最低價格	〇・六三	〇・〇六	〇・五四	〇・六二
					〇・七〇

右表ハホールウイック氏ガ産業委員會ノ報告ニ

基キ、一八九四年ニ至ル各月平均市價ト一八九五年ニ至ル日々ノ市價トヲトリ來リテ計算シタルモノ也、之レニ依リテ觀レバ石油「トラスト」ノ成立以來十七年ノ中、凡ソ九年間ハ原油ト各月平均市價ハ往々ニシテ其生産原價以下ニ降リシコトアルヲ知ル、而シテ斯クノ如キ狀態ハ一八八六年中ニ五箇月、一八八七年中ニ八箇月、一八九一年ヨリ九三年ニ至ル間ニ二年六箇月間繼續シ、一八九七年及一八九八年ノ隆盛期ニ於テサヘ原油市價ハ半年以上ノ間生産原價以下ニ在リシヲ見ル也、(註十)

註九 Report of the Industrial commission. vol. I. p. 101.

Jenks—Trust Problem, p. 155-156.

Ernst von Halle—Trusts or Industrial Combination in the U. S. p. 70.

註十 The Making of America vol. III.

“Trusts and Prices.”

拙譯「トラス」市價「國民經濟雜誌」、第十卷第一號

遮莫、企業合同ガ其原料品ノ市價ヲ左右シ得

ル程度ニハ一定ノ限度ナカルベカラズ、何トナレバ通常ノ場合ニ於テハ原料品ノ需要者ハ獨リ合同ノミニアラズシテ他ニ競争の需要者アルベケレベ也、例ヘバ木材ハ紙ノ原料ナレドモ木材ヲ使用スルモノハ獨リ製紙業者ニ限ラズ、或ハ建築用トシテ或ハ薪炭トシテ用ヒラル、ヲ以テ今製紙業者ノ合同成立シタリトスルモ木材ノ價格ヲ全ク左右スルコト能ハザルガ如シ、要スルニ之レラハ程度ノ問題ナルヲ以テ一概ニ論斷シ能ハザレドモ兎ニモ角ニモ合同企業ガ出來ル丈ケ原料市價ヲ低落セシメテ、ヨリ多ク其營利心ノ満足ヲ計ラント努ムルハ蔽フ可カラザル事實ナリトス(註十一)

テ曰ク

(註十一) Dudley G. Woolen 氏ハシカエ會議ニ於テ演說シ

“Their fundamental purposes are to reduce expenses by lowering the prices of raw material.....” ト「トラス」又「トラスト」ガ莫大ノ利益ヲ得ル所以ヲ説明シテ “At the expense of the producer of the raw material, whose

products are forced upon the market at ruinous prices;

.....”ト論ゼリ、而シテ同氏ハ原料品ノ生産地ニシテ精製品ノ需要地タルテキサス、洲ノ委員ナリ、(Chicago Conference on Trust p. 46.)

(二) 生産品ノ市價ニ及ボス影響

市價高低ノ問題ハ事一般公衆ノ利害休戚ト密接ノ關係ヲ有スル重大ナル問題ナルヲ以テ輕々ニ所斷ス可カラザルハ勿論ナレドモ、其高低ヲ惹起スル原因數多アリテ互ニ相關連スルヲ以テ其中ノ一箇又ハ二箇ノ原因ヲ擧ケテ直チニ其影響ニ歸スルハ往々ニシテ早計ニ失スルノ憾ナシトセザル也、サレバ今、合同ト其生産品ノ市價トノ關係ヲ研究スルニ當リテモ深ク此點ニ注意シ、可成他ノ原因ヲ去リ、四圍ノ狀況ノ同様ナル場合ヲ考ヘテ合同成立前後ノ市價ヲ對比考量シテ徐ロニ所斷スル所ナカル可カラザル也、而シテ合同ノ成立前後ノ市價ヲ對比スルニ更ニ考ヘザルベカラザル二箇ノ事狀アルヲ見ル。

其一ハ合同ノ成立後、其生産品市價ノ騰貴スルニ至ルモ直チニ之ヲ以テ合同ノ橫暴ニ歸ス可カラザルコト也、即チ合同成立前ノ市價ハ所謂競爭市價ニシテ事、少シク標準ヲ失シ、異常ニ低廉ナルモノナル時ニ於テハ合同ノ成立ニヨリテ市價ノ標準ニ復シ、合同前ヨリ引上ゲラル、コトアルモ必ズシモ合同ノ橫暴ヲ極ムルガ爲メニアラザルコト是レ也、此場合ニ在リテハ低廉ナル市價コソ異常ニシテ、引上ゲラレタル市價コソ健全ナル國民經濟ノ發達ニ必要ナルモノナレバ無暗ニ合同ノ獨占的橫暴ヲ鳴ラス可カラザル也。

其二ハ生産品市價ノ引上ゲガ原料品市價ノ騰貴ニヨル場合ナリ何等カノ原因ニヨリテ原料品市價ノ騰貴ヲ來シタル場合ニ於テハ勢ヒ生産品市價モ高マルベシ、此場合ニ於テモ亦市價ノ騰貴ヲ以テ合同ノ橫暴ニ歸ス可カラザル也、サレバ生産品市價ノ騰貴ガ果シテ合同ノ結果ニ歸ス

ベキモノナリヤ否ヤヲ所斷センニハ原料品市價ト生産品市價トノ差異(Margin)ノ大小ニヨリテ決セザルベカラザル也、何トナレバ此兩者ノ差異ハ主トシテ生産費及企業者利潤ノ合計ナルヲ以テ生産費ニシテ大差ナシトスレバ(比較的短時期ノ間ニハ生産費ニハ大差ナキヲ以テ)差異ノ大小ハ主トシテ企業者利潤ノ大小ト見テ大過ナカルベキヲ以テ也、予ハ以上ノ二事實ヲ念頭ニ置キツ、之レヨリ合同ト生産品市價トノ關係ヲ研究セザルベカラズ。

合同ト生産品市價トノ關係ニ就テ論者ノ說ク所、大別トシテ二箇トナル、一ハ合同ハ生産品ノ市價ヲ低廉ナラシム(少ナクトモ市價ノ變動ヲ少ナカラシム)ト云フモノニシテ他ハ之レト全ク反對ニ合同ハ生産品ノ市價ヲ騰貴セシムト云フ者是レ也、前者ノ論據トスル所ハ、蓋シ合同ハ經營、管理ノ集中ニヨリテ生産經濟上ノ利益ヲ收ムルヲ以テ敢テ其生産品ノ市價ヲ騰貴セ

シメザルモ尙且、充分ノ利益ヲ得ベク且市場ノ將來ヲ計リテ秩序アル生産ニ従事スベキヲ以テ生産ノ消長ニ變動ヲ來サシメズ從ツテ少ナクトモ市價ノ變動ヲヨリ少ナカラシムルノ利アリト云フニ在ルモノ、如シ、然レドモ予ハ以上ノ論者ニ反對ノ意見ヲ有シ、合同ハ生産品ノ市價ヲ騰貴セシム(或ハ之レニ反對スル或ル勢力ノ存在スルニヨリテ實際騰貴セシムル能ハザル場合ニ於テモ少ナクトモ騰貴セシメントノ傾向ヲ有ス)ルモノナリト信ズルモノナルガ故ニ之レヨリ其論據ヲ證明スルニ努ムベシ。

今、米國産業委員會ノ報告ニ基キ米國ニ於ケル砂糖合同ノ其市價ニ及ボシタル影響ヲ尋ヌレバ同合同ハ明カニ其生産品ノ市價ヲ騰貴セシメタル跡アルヲ見ル、即チ紐育市場ニ於ケル粗製糖市價ト精製糖ノ卸賣値段トノ差異ノ大小ヲ詳カニ檢スレバ一八八三年ヨリ一八八七年ニ至ル間ニ於テハ其差異ノ甚ダ少ナキヲ見ル、是レ蓋

シ、同年間ニ於テハ各一方ニ割據セル糖業者間ニ激烈ナル競争ノ存在セルガ爲メナリ、然ルニ一八八七年ニ至リ、砂糖合同ノ成立スルヤ精製糖市價ハ直チニ引上ゲラレ、一封度ニ付、半仙乃至一仙騰貴シ、同時ニ精糖、粗糖市價ノ差異モ甚ダシク増加シタルヲ見ル、之レ疑モナク合同ガ其市價ヲ騰貴セシメタルモノニシテ他ニ原因アリシニアラズ、爾來二年間、一八八九年ノ後半ニ至ルマデハ一面ニ於テハ市價ノ騰貴ニヨリ、他面ニ於テハ生産經濟上ノ利益ニヨリ合同ノ得タル利益ハ決シテ尠少ニアラザル事、想像スルニ難カラズ。然ルニ一八八九年ノ後半ニ至リテ新競争者現ハレ、殊ニフイラデルファイヤノ克蘭ス、スプレツケルノ如キハ廣大ナル精製所ヲ設立シテ競争シタルヲ以テ精、粗、市價ノ差異ハ再ビ低落シテ合同前ト同様トナレリ、後一八九二年二月ニ至リ、克蘭ス、スプレツケル、稍競争ニ倦メルノ色アルヲ見ルヤ直チニ

之ヲ買収シテ其市價ヲ再ビ騰貴セシメタリ、然ルニ一八八八年ノ末葉ニ至ルヤ合同ハ三度市價ヲ低落セシメテ競争者ト戰フノ已ムナキニ至レリ、競争者トハ Arbuckle Brothers; Clans Dozier 等ナリ、差異ハ再ビ減少セリ、百封度ノ價格七十五仙乃至一弗ナルモノガ五十仙ニ下リ、時トシテハ五十仙以下ニテ販賣セラレシト云フ之ヲ要スルニ砂糖合同ハ競争者ノ存在スル場合ニ於テハ市價ヲ低落セシメテ之レト戰ヒ、其漸ク競争ノ止ミ又ハ之ヲ買収スルニ至ルヤ、再ビ市價ヲ高メテ暴利ヲ貪ボリタルノ觀アリ、即チ一八八七年、合同ノ成立シテ一八九九年ニ至ル十二年ノ間、其中ノ九年間ハ市場ヲ獨占シタルモノニシテ、合同ノ成立前ニ比シ又ハ競争ノ存在セシ時ニ比スレバ常ニ市價ノ騰貴シ從ツテ差異ノ甚ダ増加セルヲ見ル也。

次ニ之レヲ米國ニ於ケル精酒合同ニ就テ觀察スレバ更ニ一層甚ダシキヲ見ル、即チ一八八一

年乃至一八八七年ニ至ル間、同業者間ニ種々ノ聯合成立シタリシガ(多クハ一年以内ニテ解散シタレドモ)其存續中ハ其市價甚ダ高ク、而カモ一朝破ル、ヤ直チニ下落シテ往々生産原價以下ニ下ルコトサヘアルニ至レリ、一八八七年ニ至リテ一部ノ釀造者間ニ合同ノ成立スルヤ、其競爭者ヲ壓倒センガ爲メ一時大ニ其價格ヲ切下ゲタレドモ數閱月ニシテ再ビ之ヲ引上ゲタリ而カモ其價格ヲ引上ゲテ利益ノ漸ク大ナラントスルヤ新競價者ノ發生ヲ促ガシ、一八八九年ノ初葉ニハ之ヲ壓倒セントシテ大ニ其市價ヲ切下ゲタリ、而シテ一八九〇年ニ至リテ遂ニ之ヲ買收スルヤ、間モナク一八九二―九三年ノ投機時代ニ入り、不當ニ其市價ヲ引上ゲ他面、生産ヲ制限シテ以テ莫大ノ利益ヲ得タリ、然ルニ一八九五年ニ至リ、The American Spirits Manufacturing Co.ノ創設セラレ、間モナク同合同ト合併スルヤ、爾來其事業ノ基礎漸ク確實トナリ、市

價ノ變動モ亦甚ダシカラザルニ至レリ、之ヲ要スルニ精酒合同ハ過度ノ利益ヲ一時ニ得ント欲シタル爲メ却ツテ競爭者ノ發生ヲ誘起シ、永ク其市價ヲ維持スルコト能ハズシテ、再ビ低落セシムルノ已ムナキニ至レリ、即チ同合同ノ市價ヲ左右シタルハ永キモ數箇月ニ過ギズ、而カモ一旦低落スルニ至ルヤ、其變化餘リニ甚ダシキ爲メ、其事業ノ基礎ヲ危フシタルノミナラズ、一般經濟界ニ及ボス影響ハ甚ダ不良ナルモノアリシ也。

次ニ石油、葉鐵、鋼鐵及線鐵等ノ合同ガ市價ニ奈何ノ影響ヲ及ボシタリヤト云フニ予ハ一々之ヲ詳說スルヲ止ムベシト雖モ今、米國產業委員會ガ到達シタル結論ヲ以テスレバ以上ノ諸合同ハ何レモ砂糖合同、精酒合同ト同様ニ其市價ヲ騰貴セシメ、又ハ少ナクトモ騰貴セシメント努メタルノ傾向アルハ疑フ可カラザル所也。

以上ハ產業委員會ノ報告ニ基キテ米國ニ於ケ

ル二三ノ實例ヲ舉ゲタルノミ、予ハ之レヲ以テ直チニ予ノ主張ヲ證明シタルモノナリト所斷スル程、早計ナラズト雖モ又以テ合同ト市價トノ關係ノ一端ヲ知ルニ足ルベシ、思フニ本邦ニ於テハ曩キニ製麻會社ノ合同アリ、製鋼業ニハ東京製鋼株式會社ナル完全ナル合同アリ又麥酒釀造業ニハ全生産額ノ殆ンド八割ヲ占ムルト云フ大日本麥酒會社アリト雖モ予ハ今コレヲノ合同ガ其市價ニ及ボシタル影響ヲ知ルベキ正確ナル材料ナキヲ遺憾トス、唯近年一般產業界ノ不況時ニ際シテモ以上ノ合同ガ何レモ相當ノ純益ヲ收メツ、アルヲ見、他面、以上ノ貨物ヲ取扱フ商人ノ語ル所ヲ以テスレバ何レモ其市價ヲ騰貴セシメタルノ形跡アルヲ見ル也。

然ラバ合同ハ、經營管理ノ集中ニヨリテ一面ニ於テ生産經濟上ノ利益ヲ收メナガラ他面ニ於テ何ガ故ニ其市價ヲ高ムルヤ、予ハ斯ク考ヘ來リテ其理由トシテ左ノ四箇ヲ得タリ。

(一) 企業ノ目的ハ營利ニ在ルコト、

云フ迄モナク企業ノ目的ハ營利ニ在リ、貨幣價值ニ見積ラレタル財ノ増殖ニアリ、而シテ合同モ尙一ツノ企業ナル以上、其目的トスル所ハ固ヨリ營利ニ在リ、學者ノ語ヲ借リテ言ヘハ企業ノ心理的基礎ハ營利心ナリ、飽クコトヲ知ラザル營利心ナルモノハアラユル機會ヲ利用シテ以テ満足ヲ計ラントスルガ其特長ナリ、斯クノ如キ特長ヲ有スル營利心ヲ以テ其心理的基礎トナス企業ガ、同業者間ノ自由競争ニヨリテ久シク之ヲ満足セシムルコト能ハザルノミナラズ、時ニハ往々ニシテ損失サヘモ忍ブノ已ムベカラザリシニ偶々合同スルニ至リテ例令不完全ナガラモ(時ニハ完全ニ)獨占的地位ヲ獲得スルニ至ルヤ、直チニ市價ヲ引上ゲテ久シク渴シタル營利心ヲ満足セシメ、騎虎ノ勢ニ乗ジテハ往々ニシテ獨占的市價ヲ貪ボルニ至ルハ勢ノ當然ナリト云フベシ、之レ合同ガ其市價ヲ騰貴セシムル

第一ノ原因ナリ、

(一) 競争ノ結果、久シク損失ヲ重キ

タルコト、

元來合同ナルモノハ自由競争ノ激烈ナル結果發生シタルモノ也、初メ企業者ハ自由競争ニヨリテ敵ヲ斃シ、自己獨リ榮エテ以テ營利心ヲ満足セシメントセリ、然ルニ經驗ハ彼等ニ教フルニ自由競争ハ其目的ヲ達スルニ餘リニ高價ナルヲ以テセリ、且高價ナル代價ヲ以テスルモ容易ニ獲得セラレザルヲ以テセリ、而シテ遂ニ彼等ガ合同スルニ至ルモ已ニ支拂ヒタル高價ナル代價ハ之ヲ回收セザルベカラザル也、此點ニ於テモ亦合同後ノ市價ハ當然引上ゲラルベキ也

(二) 多額ノ混水株ヲ發行スルコト、

已ニ本誌第十一卷第四號ニ於テ「混水株ノ弊害ヲ論ズ」ト題シ、聊カ卑見ヲ陳ジ置キタルガ如ク、今日米國ニ於ケル多クノ合同ハ合同發起人(trust promoter)ナルモノニヨリテ投機ノニ設

立セラル、コト多ク、而カモ其合併ノ際ニ發行セラル、多額ノ混水株ハ合同ノ公稱資本ヲシテ甚ダシク實際資本ニ超過セシムルニ至ルヲ以テ此超過資本額ニ對シテ相當ノ配當ヲナサンニハ勢ヒ市價ヲ高ムルノ已ムナキニ至ルベシ、

(四) 經營者ノ不適任ナルコト、

合同ノ經營者トシテ適當ノ人物ヲ得ザルコトモ亦市價ノ騰貴ヲ惹起スル原因ノ一ニ數ヘザルベカラズ、合同ハ已ニ述ベタル如ク生産經濟上ノ利益ヲ收ムルモノナルガ故ニ市價ヲ標準ニ保ツモ尙且相當ノ利益ヲ收ムルヲ得ベシ、然ルニ經營者トシテ適當ノ人物ヲ得ルコトノ難キ、啻ニ一身一家ノ利益ヲ思フテ國家經濟ノ發達ヲ願ミザルノミナラズ、利益ヲ一時ニ收メントシテ市價ヲ暴騰セシメ、遂ニ新競爭者ノ發生ヲ促ガスニ至ル也、彼ノ精酒合同ノ如キ其好例タラズンバアラズ。

之ヲ要スルニ此點ニ關スル予ノ研究ハ未ダ充

分ナラズ、材料モ亦、正確豊富ナリト云フ可カラズト雖モ之レヲ多クノ事實ニ就テ見、企業本來ノ目的ニ考ヘ、合同發生ノ原因ニ就テ觀察スルトキハ合同ハ大體ニ於テ其生産品ノ市價ヲ騰貴セシメ、或ハ少クトモ騰貴セシメントスル傾向ヲ有スルモノナリト斷言シテ甚ダシキ差支ナカルベシト信ズル也、(註十二)

註十二 「カルテル」ハ「トラスト」ト其性質ヲ異ニスルガ如ク、其生産品ノ市價ニ及ボス影響ニ就テモ少シク異ニスル所アリ、蓋シ、「トラスト」ハ企業ノ合同ナルヲ以テ各企業ハ合併統一シテ、所謂生産經濟上ノ利益ヲ收ムルノミナラズ、無能ナル、收益力ノ少ナキ工場ハ之ヲ閉鎖シ、收益力ノ大ナル工場ヲ充分ニ利用シテ以テ生産費ノ節約ヲ計ルヲ得レドモ「カルテル」ハ主トシテ商業的聯合ナルヲ以テ以上ノ如キ利益伴ハズ、且ツ聯合中ノ弱小者ヲモ生存セシムル程高キヲ要スルモノナルヲ以テ其生産品ノ市價ハ常ニ必ズ相當ニ高價ナルモノナラザルベカラズ、即チ「カルテル」ガ其生産品ノ市價ヲ騰貴セシムルモノナルコトハ常ニ「カルテル」ノ性質ニヨリテ明ナルノミナラズ、一面ニ於テ生産經濟上ノ利益ノ伴ハザルト他面ニ於

テ聯合中ノ無能力者ヲモ生存セシムル程ノモノナルトニヨリテ見ルモ疑ヲ容レザル所也

(未完)

利息算ヲ論ズ

原口亮平

目次

- (一) 總論
- (二) 本則タル算法
- (三) 單利法
- (四) 割引
- (上) 總說
- (中) 銀行割引
- (下) 眞割引
- (五) 結論
- (一) 總論

第一節 利息ヲ以テ金錢ノ使用ニ對シテ支拂フ報酬ナリトシ之ニ關スル計算ヲ利息算トスルハ數學ニ於テ普ク指示スル所ナリサレドモ本來